
お風呂上がりにそろそろ裸なのが恥ずかしくなってきた娘

ネムリンコフ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お風呂上がりにそろそろ裸なのが恥ずかしくなってきた娘

【Nコード】

N5580V

【作者名】

ネムリンコフ

【あらすじ】

ある娘は風呂上りに裸でいるのがそろそろ恥ずかしいが・・。
。

娘は何を恥ずかしがったのか、夜の冷氣に晒していた、まだ湯気を立てる熱いからだにあわてて服を着始めた。着終わると今度は恥じらいの表情を浮かべてベッドにもぐり布団を頭まで被り、うー、と唸りながら布団のなかでもだえ始めた。しかしなぜ？ この部屋には彼女一人しかいない。窓はカーテンをしっかりと閉めていたのだから、外から見られるはずも無い。

そもそも彼女は他人からの視線に人一倍気を使う娘であった。部屋は五階にあるにもかかわらず、日中でもほとんど開けることは無い。洗濯物も、タオル一枚であろうと外から見える形でものを干すことはいままで一度もなかった。盗撮も警戒して、週に一度は金属探知機を持って部屋を歩き回っている。ここまで注意深いのだから、うっかり誰かに見られていたということはないのではないか。ではいったいどうして。

「あなたですよ」

娘はいきなり布団から首を出して何も無い部屋の空間をにらめつけた。まだ湿った前髪が顔にかかり、しかめ面と合わさって凄みを帯びている。

「何も無いってあなたがいるじゃないですか。真正面から見てるから私の表情を書けるわけでしょ」

と、彼女は言ったが、やはりそこには誰もいないのだった。

「いるでしょあんたが」と彼女は叫んだ。

「だいぶ前から気づいてたよ。気づかないふりしてたけどさ。でももう限界。あたしが人に見られるの我慢なら無いってさっきあんた言ってたでしょ」

彼女は布団を跳ね飛ばしベッドから飛び起きると、先ほど着た服を脱ぎ始めた。

「ちよっとなにさせんのお」といってまた一人中に向かって叫んだ。

「だからあんたが！見て！私の裸見て！見て」彼女は全裸で叫びだした。

「なにこれあんたが言わせ見て欲しい！私のキレイな体！もっと大勢の人に見て欲しいの！」彼女は部屋の真ん中で大きく胸をそらし、恍惚とした表情で叫んだと思うと、すぐに涙目になって部屋の真ん中でへたり込みながら「たすけてごめんなさい！あやまりますから！たすけて！ねえ！やめさせて！」と喚いた。

泣きじゃくりながらおもむろに立ち上がると、居室を出て、キッチンを通り、玄関扉の鍵に手を伸ばした。

「ねえ、やめてください、お願いだから、それは無理ですから、あの」まるで誰かに懇願するかのように声を震わせて言いながらも、同時に彼女は右手で鍵を開け、チェーンを外し、扉の取っ手に手をかけた。

「やだあ！やだよお！やだやだやだ！ってなわけがないじゃない！アタシの自慢の！自慢じゃない！自慢のボディ！ご覧になって！欲しくない！」

彼女は素っ裸のまま玄関の扉を開けた。すっかり湯冷めした体に、夜の冷気が刺すように彼女の肌に触れる。

「さーあ往來の皆さん！私の体キレイでしょ！？触ってもいいのよ！ね！ね！さあさあさあ！見て頂戴！いや！見ないで！見て！見ないでよお！見て！見なっ見て！見て！見てえ！」

彼女はそう叫びながら夜の町へ駆けていった。泣きながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5580v/>

お風呂上がりにそろそろ裸なのが恥ずかしくなってきた娘

2011年9月1日11時17分発行